

日本顎口腔機能学会 第 55 回学術大会 報告

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野

大会長 矢谷 博文

準備委員長 瑞森 崇弘

日本顎口腔機能学会 第 55 回学術大会は大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野教授矢谷博文を大会長として、平成 27 年 10 月 31 日、11 月 1 日の 2 日間、大阪府吹田市の千里ライフサイエンスセンター 千里ルーム A で開催されました。大会には特別講師 2 名、一般 56 名、大学院生・研修医 38 名、計 96 名、懇親会には特別講師 2 名、一般 32 名、大学院生・研修医 22 名、計 56 名が参加し、大阪大学大学院 工学研究科 知能・機能創成工学専攻、大阪大学未来戦略機構 認知脳システム学研究部門 部門長の浅田 稔教授による特別講演とシンポジウム（学術企画）が開催され、14 題の一般講演とともにいずれのセッションにおいても活発な議論が行われました。

初日は大会長の挨拶で始まり、セッション I では日本大学松戸歯学部准教授の小見山道先生を座長として、大阪大学の原木真吾先生が「高頻度の RMMA を有する若年被験者における生理学的及び心理学的特性」、大阪大学の辻阪亮子先生が「高頻度 RMMA を有する若年被験者における呼吸イベントの発現特性」、大阪大学の加藤隆史先生が「実験動物およびヒトのノンレム睡眠で発生するリズム性咀嚼筋活動の生理学的類似性」について、発表されました。セッション II では北海道大学講師の岡田和樹先生を座長として、大阪大学の矢野博之先生が「実験的急性ストレスによるモルモットの睡眠と顎筋活動の変化」、明海大学の斉藤小夏先生が「日中の筋電図バイオフィードバック訓練が夜間のグライインディン



グに及ぼす影響」，大阪大学の熊城圭祐先生が「睡眠の質の主観的評価と睡眠・覚醒状態との関連」について，発表されました。

初日午後の部はセッションⅢから始まり，明海大学教授の藤澤政紀先生を座長として，昭和大学の吉田裕哉が「睡眠時ブラキシズム臨床診断基準の PSG を用いた検証」，日本歯科大学の山本早織先生が「2 次元下顎運動記録装置による咀嚼運動の分析」について，発表されました。



続いての特別講演は，大阪大学大学院工学研究科教授の浅田 稔先生をお招きし，「親子間相互作用が結ぶ言の葉はじめ」の演題で，矢谷博文大会長を座長として行われました。浅田 稔先生はロボットの国際競技会「ロボカップ」の創始者のお一人でビデオや「ロボットという思想～脳と知能の謎に挑む」などのご著書などをお示しになりながら，ロボティクスについて熱心にお話され，参加者はその内容に引き込まれておりました。浅田教授は懇親会でも最後まで多くの参加者に囲まれて討論を交わしておられました。



特別講演後には「歯学と工学の新たな出会い ～ロボティクスから学び、共創する、歯科のブレイクスルー～」と題したシンポジウム（学術企画）が開催され，早稲田大学 総合理工学研究所 客員講師の安藤 健先



生をお招きし、「医工連携による実践的医療福祉ロボットの開発」の演題で、岩手大学の佐々木誠先生と大阪大学の徳田佳嗣先生をコーディネーターとして行われました。特別講演と共通する題目であり、多くの先生方がディスカッションに参加され有意義なシンポジウムになりました。

シンポジウム終了後には別階に場所を移動して懇親会が行われました。懇親会冒頭で第53回学術大会優秀賞1位の岩手大学佐々木誠先生から第54回学術大会優秀賞1位の明海



大学大塚英稔先生にサインボードが、また、皆木省吾日本顎口腔機能学会会長から優秀賞2位の岡山大学萬田陽介先生と同3位の新潟大学酒井翔梧先生に表彰盾がそれぞれ手渡されました。その後、サインボードが置かれたテーブルが Young Cabinet Table になり、受賞者や若手の先生方が集いディスカッションを展開しました。





学術大会2日目のセッションIVは昭和大学教授の井上富雄先生を座長として、大阪大学の東山 亮先生が「睡眠中の錐体路電気刺激に対する顎筋の応答特性」，昭和大学の中山希世美先生が「ヒスタミンによるラット閉口反射の抑制」，大阪大学の大原春香先生が「情動はどのような神経機構によって咀嚼に影響を及ぼすのか」について，発表されました。

大会最後のセッションVでは広島大学教授の津賀一弘先生を座長として，日本大学松戸の本田実加先生が「カプサイシンを用いた舌痛症モデルにおける舌の疼痛閾値の検討」，新潟大学の神田知佳先生が「口腔への温度刺激がもたらす嚥下機能への影響」，大阪大学の村上和裕先生が「ゼリー嚥下時の舌圧発現様相と舌骨移動との関係」について，発表されました。

演者の相互評価による優秀賞は明海大学の斉藤小夏先生が栄えある最優秀賞となりサインボードホルダーになりました。新潟大学の神田知佳先生と大阪大学の辻阪亮子先生も優秀賞に輝きました。閉会の辞では、次期大会長の明海大学教授藤澤政紀先生から次期会場の東洋大学川越キャンパスの紹介も交えたご挨拶を頂きました。

最後になりましたが、第33回学術大会以来の学術大会主管を務めさせて頂くにあたり、休日のアクセスが不便な大阪大学吹田キャンパスを避けて新幹線からも空港からも電車ないしモノレール1本で到着する駅の隣接ビルで会場を借りました。このため、普段よりも当日会費を多めに頂くことになってしまいご迷惑をおかけしました。また、演題も大阪大学に偏った分布（一般演題14演題中8題）でしかも睡眠関連がほとんどという状況のため参加者の減少を危ぶんでおりましたが、御蔭様で100名近い先生方にご参加いただきましたことに感謝致します。また、この度の学術大会の開催にあたり、ご協力頂きましたすべての皆様に心からの感謝の意を表しますとともに、本学会の益々のご発展を祈念申し上げます。



大会運営スタッフ